

IT パスポート試験 本試験分析と対策法

1. IT パスポート試験とは

(1) どのような試験なのか

IT パスポート試験とは、新試験制度のレベル 1 に相当し、

職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を測る試験です。試験内容は、

4 択の問題 100 問を、2 時間 45 分

で解くというものです。

難易度的にもそれほど高い試験ではありませんから、学生の方は在学中に取得することをお勧めします。この資格を得ていれば、「コンピュータを扱う、または利用するための最低限の基礎知識をもっている」と、就職活動でもアピールすることができます。

さらに、「IT パスポート試験」からステップアップして、「基本情報技術者」を取得すれば、さらに就職で有利になるでしょう。

また、ユーザ側(コンピュータを利用する側)や、文系の方で、レベル 2 の基本情報技術者試験(午前試験と午後試験(応用)がある)はハードルが高いと感じる方は、その前のステップとして IT パスポート試験で基礎を学ぶことをお勧めします。

(2) 合格するためには何点取ればいいのか

IP 試験では、合格するには、

- ・ 総合得点が、満点(1,000 点)の 60%以上
- ・ 各分野別得点が、分野別満点の 30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で 6 割以上得点するだけでなく、ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の 3 つの分野で、それぞれ基準点をクリアしなければならないのです。

(3) CBT 方式の試験が開始される(筆記試験は廃止)

IP 試験では、今までの筆記試験が今回 23 年秋の試験で最後となり、本年 11 月からはパソコンを用いて試験を行う「CBT 方式による試験」に変わります。なお、この方式は、国家試験として初めて導入されることになります。

CBT 方式による IP 試験には、次のような特徴があります。

- 受験者が都合の良い日時・会場を選択して受験が可能になる。
- 受験申込みから試験結果の確認までが迅速になる。
 - 最短で試験日の前日まで申込みが可能になる。
 - 試験当日に試験結果の確認が可能になる

CBT 方式による試験の専用サイトが IPA の Web サイト上で公開されており、会場や会場ごとの試験日時、申込方法などは受験申込の開始時に公表される予定です。

◆受験申込開始： 10 月 27 日 12:00

◆試験開始： 11 月 25 日

2. 23 年秋・本試験問題の傾向

(1) 出題分野及び出題テーマ

ストラテジ系，マネジメント系，テクノロジー系の各分野の出題数は，

ストラテジ系：小問形式 31 問＋中間形式 4 問 （合計 35 問）

マネジメント系：小問形式 21 問＋中間形式 4 問 （合計 25 問）

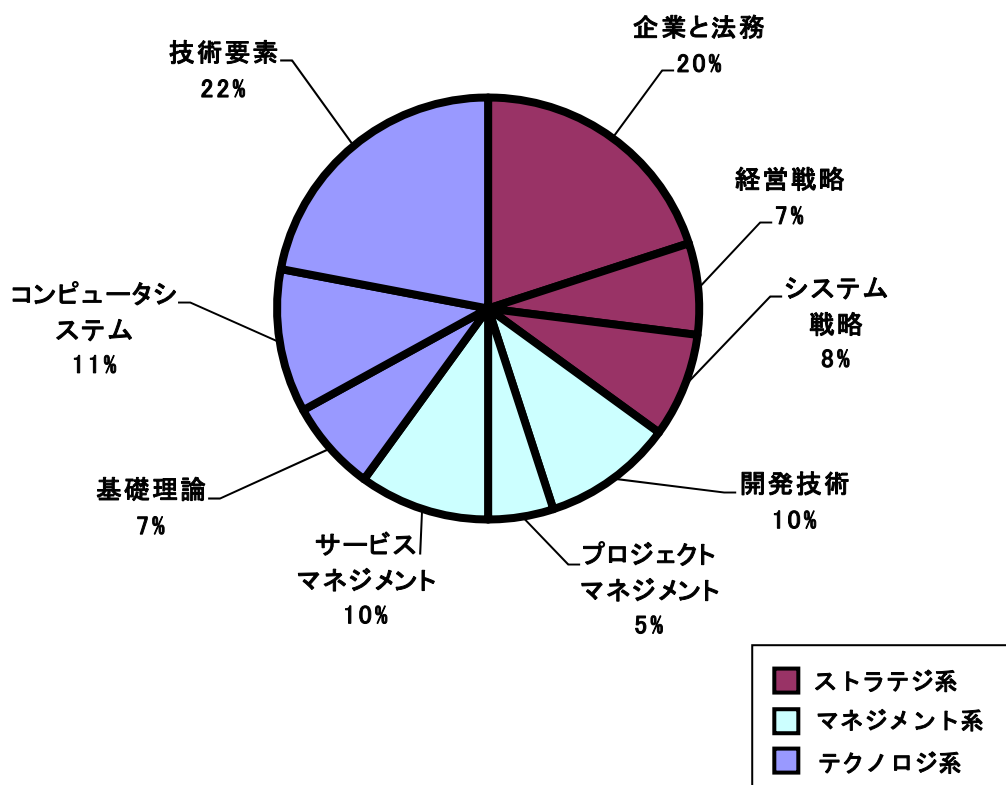
テクノロジー系：小問形式 36 問＋中間形式 4 問 （合計 40 問）

となっており，「35：25：40」の出題比率には変化がありません。

これをさらに細かく分けた大分類別の出題比率は，次のようになっています。

大分類	出題比率	出題数
企業と法務	20.0%	20 問
経営戦略	7.0%	7 問
システム戦略	8.0%	8 問
開発技術	12.0%	12 問
プロジェクトマネジメント	5.0%	5 問
サービスマネジメント	10.0%	10 問
基礎理論	7.0%	7 問
コンピュータシステム	11.0%	11 問
技術要素	22.0%	2 問

出題テーマ構成



● 小問形式

基本的にはシラバスに沿った問題が中心ですが、シラバスには掲載されていない用語に関する問題も複数出題されています。しかし、シラバスには載っていない用語でも、過去に出題された問題と論点が全く同じものや情報処理試験としては定番テーマと言える問題が少なくなかったため、それらに関しては、テキストや問題演習などで基礎的な学習を積んでいれば見覚えがあったのではないのでしょうか。なお、IT パスポート試験で初出題となるテーマは若干減った印象です。

① ストラテジ系

前回と同様に、例年よりは企業と法務からの出題が多い傾向でした。初出題テーマとしては、「OJT、オピニオンリーダー、クロスライセンス、製造物責任法、プロバイダ責任制限法」などが出題されました。初出題テーマは法務からの出題が多かったことも特徴です。

② マネジメント系

定番テーマからの出題がほとんどです。通常の試験対策学習をしていればすんなり解けたのではないかと考えます。開発工程やテスト、ITIL のプロセスといった IT パスポート試験でよく問われるテーマからそれぞれ複数出題されており、初出題テーマは「リスクチェックリスト」などごく少数です。特にサービスマネジメントの問題はストレートに定義を問うタイプが多く、ここで得点と時間を稼いでおきたいところです。

③ テクノロジ系

各分類からの出題バランスは例年と同様で、セキュリティからの出題が最も多くなっています。定番テーマからの出題が多く、初登場テーマとしては「オンラインストレージ、VPN」などが挙げられます。

● 中間形式

現行の IT パスポート試験の間 89～100 では「1 問中に 4 設問」の形式で中間が 3 問出題されています。中間は、問題文が長く事例などを用いた応用的な問題となるため、基礎知識に加えて、問題読解力、分析力、計算力などが必要となります。

今回の中間では、ストラテジ系、マネジメント系及びテクノロジ系の全分野から満遍なく出題されています。

〔中間 A〕 デジタル画像の圧縮・回転(テクノロジ系 4 設問)

2 次元のデジタル画像を題材として、画素データを文字列として出力、その文字列の圧縮、デジタル画像を回転させる処理などを扱う問題です。上位試験である基本

情報技術者試験の午後問題でも扱われるようなテーマであり、各設問での論点も、2次元データの扱いや文字列圧縮、流れ図など、技術的に高度な内容となっています。

〔中間 B〕 通販システムの開発(マネジメント系 4 設問)

新システムを構築するに当たってのユーザへのヒアリングから、システム稼働可否の判定までの流れが取り上げられています。実施手順、作業者の必要人数見積り、日程見積りなど、開発管理に関する定番テーマが問われていました。

〔中間 C〕 売上向上プロジェクト(ストラテジ系 4 設問)

チェーン展開している販売会社における、販売促進活動に関する問題です。現状把握のための調査方法、問題解決のシナリオ、販促活動の優先度把握などが題材となっています。特別な知識はあまり必要とせず、問題文を読んでその内容から判断するタイプの問題でした。

(2) 難易度の特徴

全体の難易度は、例年と同等という印象です。解くのに手間がかかる問題や問われている論点が深い問題も数問ありますが、そのような難問は毎回必ず数問含まれていますので、例年通りと言えるでしょう。テキストによる学習と問題演習を積んできた方ならば、2時間 45 分の試験時間内に合格基準に達する正答数を得られると考えます。

なお、小問・中間ともに始めの方に難問が配置されていますので、先頭から解くことにこだわらずに「後回しにする」ことができたかどうか、成果に影響すると思われます。

●小問形式

例年と同様、過去の情報処理技術者試験からの流用は少なく、ほとんどが新作の問題でした。したがって、過去問題の丸暗記のみでは対応は難しいと言えます。ただし、過去の IT パスポート試験の問題と全く同じ論点や用語が問われている問題は複数ありましたが、過去問題の演習は重要な学習方法と言えるでしょう。

今回も、知識を問うタイプの問題が半数以上を占めます。単純に用語の定義を聞くのではなく、「その目的や活用の具体例」などきちんと理解しているかを問うといった“聞き方を工夫した問題”や、“選択肢の記述が悩ましい問題”も見受けられます。特に、ストラテジ分野における知識問題は問い方が難しい問題が多く、マネジメント分野では解きやすい問題が多いという印象です。なお、前回までと比べると初出題テーマが若干減ったため、知識問題は易し目であるという印象をもった受験生もいるかもしれません。

前回に引き続き、「複数の用語の組合せ」や「3～4 個の記述から適切なものをすべて挙げたもの」を選ばせるといった、より多くの知識を要する問題も複数問出題されていました。特に、後者の形式の問題では、各記述について適切か否かを見極めなければならず、一部に悩ましい記述が含まれている問題もありましたから、キーワードだけ暗記していると対応が難しくなります。

〔問題例：23 年秋 IP 本試験問 60〕

問 60 受信した電子メールに PKI（公開鍵基盤）を利用したデジタル署名が付与されている場合に判断できることをすべて挙げたものはどれか。

- a 電子メールの添付ファイルはウイルスに感染していない。
- b 電子メールの内容は通信途中において、他の誰にも盗み見られていない。
- c 電子メールの発信者は、なりすましされていない。
- d 電子メールは通信途中で改ざんされていない。

ア a, b イ a, c ウ b, d エ c, d (解答 エ)

事例を用いた問題や計算問題は、知識問題と比べて問題数は多くありませんが、手間がかかるか、あるいは考え方が難しいなど難易度の高い問題が多い傾向にあります。事例問題は特にテクノロジー分野に多いため、この分野に苦手意識をもつ受験生が多いと思われませんが、今回のテクノロジー分野における事例問題は定番と言える問い方のものが多く、それほど難しくありませんでした。一方、ストラテジ分野の数少ない事例問題には、考え方が難しい問題が複数ありました。

● 中間形式

今回は、中間によって難易度の差が大きいという印象を受けます。中間ごとの難易度は、中間 A が難、中間 B が標準的、中間 C が標準的～やや易、と考えます。

中間 A は、問題文の例と説明をじっくり読んで、仕様を正しく把握しなければ解けない問題です。特に、2 次元データの回転は、上位試験である基本情報技術者試験の午後問題で問われることもある論点ですから、IT パスポート試験としてはかなり難しいと言えるでしょう。受験生の得手不得手によっては全く手がつけられないという事態も考えられます。それ以外の問いにも、論理的思考が得意であっても、問題文を丁寧に読んで重要なポイントを読み落とさないように注意しないと、解答を間違えてしまうようなひっかけが含まれていました。

中間 B は、基本的な知識習得と問題演習をしていれば、問題文を丁寧に読むことで解答が見つけられる問題でした。条件を正しく把握して計算や検討をする必要がありますので少々手間はかかりますが、難易度としてはごく標準的と言えるでしょう。

中間 C は、問題文から素直に判断すれば解けるであろう問題でした。専門知識はあまり必要としないので、長めの文章を読んで問いに答えるという中間対策の基本となる練習を積んできた受験生であれば、容易に解答できたものと思われます。

3. 試験の対策

(1) テキストで基礎知識の習得をしっかりと

まず、シラバスやテキスト、参考書に載っている用語は一通り把握しておきましょう。しかし、単純に用語の定義を覚えるだけでは、複数の知識を問う問題や、より複雑な事例や計算のような問題に対し、対応が困難です。合格基準に達するためには、より詳しく、考え方、仕組み、使用する場面、効果・役割などの関連知識を身に付けることも重要になります。

また、計算問題については、基本公式や解法パターンの確認及び応用問題の演習を行う時間を学習中に設けて、十分に攻略を行うようにしましょう。

(2) インプット／アウトプットのサイクルをバランス良く

テキストによるインプット学習、演習によるアウトプット学習をバランス良く行い、
インプット → アウトプット → 再インプット → …

というサイクルによって知識を定着させていくことが重要です。また、試験全体の出題範囲は広いですから、限られた学習時間の中で効果的に学習しなければなりません。そこで、演習問題を解くとき、用語や文章正誤の問題であれば、正解選択肢だけを見るのではなく、それ以外の選択肢についてもしっかりと確認・把握するようにしましょう。

(3) 弱点分野を作らない

IP 試験では、合格するには、

総合得点が、満点(1,000 点)の 60%以上

各分野別得点が、分野別満点の 30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で 6 割以上得点するだけでなく、ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の各分野ごとに、基準点をクリアしなければならないのです。学習を始めたばかりの頃は苦手な分野もあるかもしれませんが、試験本番までには弱点を克服し、各分野とも満遍なく得点できる力をつけましょう。

(4) 中間対策では、演習経験が重要

CBT 方式の試験では、中間の数が

現行の 3 問 → 4 問

に増加します。ということは、12 問／100 問だったものが、16 問／100 問となりますので、その比重が大きくなります。そのため、中間対策は今までより重要になってきます。

中間は、特別な知識をあまり必要としない代わりに、「小問より少し長い問題文を読むので、そこから判断する」という応用力が求められますので、問題演習によって慣れておくことが得点に繋がります。

(5) 演習問題を解いて解いて解きまくる！

学習後半は，演習を中心とした対策に切り替え，解けなかった問題や，あやふやな知識はそのつどテキストなどに戻って確認していきましょう。ただ解くだけでなく，解説を利用して他の選択肢の確認をすることも効果的な学習になります。

(6) コンピュータ操作に慣れておこう

IT パスポート試験は今回で筆記試験が終了し，11 月からはコンピュータを使用した CBT 方式の試験となります。CBT 方式では，問題文がモニター画面に表示され，解答は基本的にマウス操作で入力していくことになります(リハーサル試験などの情報から，計算用紙などは配布されると予想されます)。受験番号などもキーボードから入力することになると思われますので，コンピュータ操作に慣れていない方は，本番までにマウスやキーボードの操作に慣れておく必要があります。

また，紙の問題冊子と異なり，問題文のポイントに下線や丸囲みを書き込むといった工夫ができなくなりますので，「手元に紙を用意し，ポイントを箇条書きしていく」といった練習をしておくといいかもかもしれません。

なお，平成 23 年 10 月現在，試験センターの公式 Web サイトにて「IT パスポート試験疑似体験用ソフトウェア」が公開されております。